



Photo:Bill Cooper

シルヴィ・ギエム Carmen

「カルメン」 <振付:マッツ・エック>

100年にひとりのプリマ、降臨—!

名作「ボレロ」で世界中を魅了したスーパー・バレリーナ、シルヴィ・ギエム。パリ・オペラ座、英国ロイヤル・バレエほかで数々の名演を残し、人気・実力ともバレエ界の頂点を極めいまや神話的存在ともいえるダンサー。全幕作品や「ボレロ」を封印した彼女が挑戦する新境地、マッツ・エック振付「カルメン」は期待大! 日本では初めて披露するこの作品を引っさげて、堂々の全国ツアー。またギエムのあの美しい踊りが観られる! 常に自分自身の限界を超えようとするアーティスト、ギエムの今をあなたの目でお確かめください。

「エチュード」 東京バレエ団

「カルメン」 シルヴィ・ギエム マッシモ・ムッル 東京バレエ団

※音楽は録音音源を使用します。



Photo:Eiichiro Sakata

2013

11/23 土・祝 PM 2:00

愛知県芸術劇場大ホール

S ¥ 16,000 A ¥ 14,000 B ¥ 11,000 C ¥ 9,000
D ¥ 7,000 E ¥ 5,000 学生 ¥ 3,000 (税込)

学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

主催 / 中京テレビ放送
企画・運営 / 中京テレビ事業

5/25(土) 発売開始!
AM10:00~

お問合せ 中京テレビ事業 ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月~金 AM10:00~PM5:00 / 土・日・祝日休業)

<http://cte.jp> 中京テレビ事業 検索 座席表からお席をお選びいただけます!

チケット販売所

- 中京テレビ事業チケットセンター 052-320-9933
 - チケットぴあ (Pコード:428-043) 0570-02-9999
 - ローソンチケット (Lコード:48158) 0570-084-004
 - 愛知芸術文化センター-PG 052-972-0430
 - 栄プレチケ92 052-953-0777
 - イープラス eplus.jp
 - 名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755
 - 中日サービスセンター 052-263-7282
- 他 有名プレイガイド



Photo: Eiichiro Sakata

シルヴィ・ギエム *Sylvie Guillem*

母親が体操の教師であり、国立スポーツ学院で体操のトレーニングを受ける。12歳のときには、すでにオリンピックの予選を通過。振付の基礎を身につけるためオペラ座バレエ学校でバレエの研修を受けたのをきっかけに、バレエ学校の校長クロード・ベッシーの薦めで、1977年にオペラ座バレエ学校に入学。

81年、パリ・オペラ座バレエ団に入団。83年ヴァルナ国際バレエ・コンクールにおいて優秀賞、特別賞、金賞の三冠を獲得。84年には、オペラ座の優秀な新人に与えられるカルポー賞を受賞し、ブルミエール・ダンスーズに昇格。そしてその5日後の12月29日初めて主演した『白鳥の湖』の終演後、舞台上で芸術監督ルドルフ・ヌレエフによってエトワールに任命されるという、華々しい昇進劇を演じた。その4か月後にはヌレエフとともに来日し、東京バレエ団の『白鳥の湖』に客演している。89年にオペラ座を離れ、英国ロイヤル・バレエ団に移籍して「国家的損失」と言わしめたほどの天才ぶりを示した。

世界各地から招かれて客演し、現在実力、人気ともにバレエ界の頂点に立つ。また、98年はフィンランド国立バレエ団で古典の『ジゼル』を現代的な解釈と演出で洗い直して舞台化し、2001年には演出と美術に手直しを加えてミラノ・スカラ座バレエ団でも初演。改めて才媛ぶりを認識させた。03年12月、自ら委嘱したラッセル・マリファント振付『ブローケン・フォール』をロイヤル・オペラハウスで初演。ギエムの新境地を拓いた本作品はオリヴィエ賞を獲得し、2年続けてサドラーズ・ウェルズ劇場で再演された。

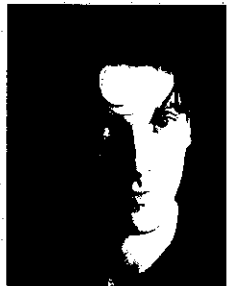
アソシエイト・アーティストを務めるサドラーズ・ウェルズ劇場では、06年9月にアクラム・カーンとのコラボレーション『聖なる怪物たち』を初演、また09年2月には、演出家のロベール・ルバージュ、振付家ラッセル・マリファントとのコラボレーションによる『エオンナガタ』を上演し、話題となる。

10年12月、ストックホルムでエック振付『アジュール』を初演、11年7月にはロンドン、サドラーズ・ウェルズ劇場にてフォーサイス振付『リアレイ』を初演した。また、東日本大震災復興支援のため、4月6日、パリのシャンゼリゼ劇場で〈HOPE JAPAN〉と題するチャリティ・ガラを企画となり、7月のロンドン公演でも同趣旨のガラを開催した。11年10月には東京での復興支援チャリティ・ガラに出演、『ボレロ』『ルナ』を踊り、続いて東京バレエ団との全国ツアーでも『ボレロ』『TWO』などを踊った。

芸術文化勲章シュヴァリエ、レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ、99年にフランス国家功労賞、03年に大英帝国勲章(CBE)、09年にレジオン・ドヌール勲章オフィシエ叙勲。

マッシモ・ムッラ *Massimo Murru*

ミラノ生まれ。スカラ座バレエ学校にてバレエを学ぶ。1990年ミラノ・スカラ座バレエ団に入団し、94年にアレクサンドラ・フェリの相手役として『マノン』のデ・グリュエを踊りプリンシパルに昇格。アレクサンドラ・フェリ、カルラ・フラッチなど大物プリマとの共演をはじめ、多くの作品に主演。振付家プティとの出会いにより、演技派としてのキャリアも拓く。2003年、ミラノ・スカラ座バレエ団のエトワールに任命される。シルヴィ・ギエムの相手役として英国ロイヤル・バレエ団や日本の舞台にもたびたび登場している。



東京バレエ団 *The Tokyo Ballet*

1964年に創設。創立以来一貫して、古典の全幕作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇っており、なかでも現代バレエ界を代表する三大振付家——M.ベジャール、J.キリアン、J.ノイマイヤーが東京バレエ団のために振付けた作品は大きな成功を収めている。これまでに、25次710回の海外公演を行っており、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどヨーロッパの名だたる歌劇場に数多く出演し「日本の生んだ世界のバレエ団」として国内外で高く評価されている。12年5月にはパリ・オペラ座ガルニエ宮で26年ぶりに『ザ・カブキ』を上演し、大成功を収めている。14年、創立50周年を迎える。



photo: Kiyonori Hasegawa



マツ・エック *Mats Ek*

スウェーデンのマルメに生まれる。父は舞台俳優のアンデッシュ・エック、母はクルベリ・バレエの芸術監督を務めたビルギット・クルベリ。1962年、ストックホルムでドニー・フェューアーに師事。1966年から1973年にはスウェーデン王立劇場およびマリオネット劇場で舞台監督およびアシスタントを務めたのち、1973年よりクルベリ・バレエで活躍。1974/75年のシーズンより、デュッセルドルフのライン・ドイツ・オペラに加入、1976年にはクルベリ・バレエで『士官の従者』を発表し、振付家デビューを飾る。初期の作品『ソウェト』(1977)、『ベルナルダの家』(1978)などで国際的に注目されるようになり、ハンブルク・バレエに振付けた『眠れる森の美女』(1996)でそれは揺るぎないものとなった。1993年にクルベリ・バレエを離れたのちは、『シー・ワズ・ブラック』(1995)、テレビ用の作品『スモーク』(1995、のちに『ソロ・フォー・トゥー』として改作)など、数多くの振付作品を発表。

スウェーデン・ロイヤル・バレエ団、シュツットガルト・バレエ団、アメリカン・バレエ・シアター、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン・オペラ、パリ・オペラ座バレエ団など、世界の数多くの主要カンパニーに作品を提供。2008年には、アナラガナとミハイル・バリシニコフのためのパド・ドゥを創作、またスウェーデン・ロイヤル・バレエ団のために『ブラック・ラディッシュ』を振付けた。舞台芸術の他の形にも興味を示し、マーロウの『マルタ島のユダヤ人』(1998)、モリエールの『ドン・ジュアン』(1999)、ラシーヌの『アンドロマック』(2002)、ストリンドベリ『夢の戯曲』(2006)などの演劇作品で演出を手がけている。2010年にはモスクワで『桜の園』を演出した。